

【資料3-2】

## 会議資料②

企画財政課  
令和7年10月31日

- ① 現行の総合戦略の振り返り(プロジェクトごと)
  - 1. 戦略4の全体像
  - 2. 事業項目ごとの成果と課題
  - 3. 令和6年度までのKPIの達成状況
  
- ② 関連計画の方向性
  - 1. 地域福祉計画(R7-R11)
  - 2. 健康ふちゅう21(R7-R18)
  - 3. 国土強靱化地域計画(R3-R7)
  - 4. 地域公共交通計画(R6-R10)
  
- ③ 次期総合戦略の方向性と事業案
  - 1. 地域共生社会の実現
  - 2. 健康づくり
  - 3. 医療
  - 4. 防災・災害対応
  - 5. 地域協働
  - 6. 公共交通

## 現行の総合戦略 戦略4の全体像

### 戦略4 安心して暮らすことができる地域をつくる ～持続可能な地域社会をつくる～

プロジェクト番号	プロジェクト名	取組事業
プロジェクト8	持続可能な医療サービス	①安定した医療提供体制の構築
プロジェクト9	フレイル予防から始まる健康	①フレイル予防、通いの場でのICT活用 ②年齢に応じた市民の自主的な健康意識喚起
プロジェクト10	支えあうコミュニティづくり	①地域共生の推進 ②地域防災力の強化 ③三玉プロジェクト

## 現行の総合戦略 戦略4(持続可能な医療サービス)の振り返り

### 【「持続可能な医療サービス」ねらい】

中山間地域共通の課題である医師不足に対応するため、市内医療機関の体制整備と医師や看護師の確保とともに、市民が当たり前の医療を受け、安全・安心な暮らしを続けられるよう、市内の医療体制の充実を進める。さらに、市内で不足する医療を補うため、市外の医療機関との連携を強化し、安定的な医療サービスが継続的に提供される仕組みづくりを目指す。

### 体系図

#### 持続可能な医療サービス（重点区分C）

##### ① 安定した医療提供体制の構築

医師の確保や地域間の連携等を通じた「安定的」で「地域完結型」の医療提供体制の整備。

# 事業項目ごとの成果と課題

## (① 安定した医療提供体制の構築)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			これまでの評価				
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	市内の医療機関数及び医療機関に従事する医師数の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関開業支援等補助金（開業、医師招へい）</li> <li>医師育成奨学金による将来の医師確保</li> </ul>	順調	○	○	○	開業支援については、制度に係る問合せ等に対して個別対応している。 医師育成奨学金はこれまで7名に貸与。うち1名が福山市民病院で初期研修中（～R7年度）、1名が専門研修履修中（～R8年度）でR7年4月から市内医療機関で勤務を開始。
2	二次保健医療圏をはじめとした市外の医療機関との連携による医療提供体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院機構による病院のあり方・地域医療連携の検討</li> <li>福山市民病院との医師育成に関する連携（府中市奨学生の研修受入）</li> <li>備後圏域医療連携会議による広域での連携調整（#7119等）</li> <li>備北圏域での医療ネットワークへの参画調整</li> </ul>	順調	○	○	○	病院機構は経営強化プラン（第4期中期計画）に基づく地域医療を提供。 福山市民病院で本市奨学生の研修受入中。 #7119では、相談181件のうち126件で救急車の要請が不要と判断。救急車の過剰利用を 방지、圏域内の医療体制の維持に効果。
3	湯が丘病院の施設改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した施設の改修に係る基本計画・基本設計・実施設計の策定→改修事業の一時凍結</li> <li>病院後背地の急傾斜地の崩壊対策工事（実施中）</li> <li>入院機能の維持に必要な医師数確保の協議</li> <li>建替え後の安定的な経営継続の調査を開始</li> </ul>	遅延	○	○	-	施設改修の設計等は完了したが、設計ボリュームの増加、建築資材・人件費等の高騰による改修費用の増加により事業を一時凍結し、安定経営に向けた調査を開始。病院裏の急傾斜地崩壊対策については可能な箇所から実施中。
4	オンライン相談、オンライン診療等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児科、産婦人科オンライン相談の実施</li> <li>救急安心センター事業（#7119）の開始</li> <li>オンライン診療に係るガイドラインが改訂され、コロナ対応のための特例は見直された</li> </ul>	順調	○	○	△	オンライン相談事業は周産期・小児医療体制が十分確保できない中で安心感の醸成に寄与（R6年度は333人）。 オンライン診療のガイドラインが見直され対面診療との併用が再度適用されている。

### 成果:

・医師医学生奨学金を受けた学生が市内の医療機関で勤務を開始し、医師確保に繋がっている。

### 課題:

・医師不足に加え、開業医も減少していく可能性があり、医師・医療機関の維持確保、また、市外医療機関との連携の充実が必要。

## 現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 持続可能な医療サービス

- ・府中北市民病院では眼科の診療開始により医療提供体制が充実。医師確保の取組により診療科目は維持できている。
- ・コロナ禍の診療制限等で落ち込んだ外来患者は持ち直したが、目標値には達していない。また、人口減少もあり外来患者数は減少傾向。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
府中市民病院・府中北市民病院における診療科目数(外来)	目標	/	11+9	11+9	11+9	11+9	11+10
	実績	11+9	11+10	11+10	11+10	11+10	/
府中市民病院・府中北市民病院における外来患者数(1日当たり)	目標	/	327+149	333+152	339+155	345+158	350+170
	実績	305+159	264+175	302+154	303+146	295+141	/

## 現行の総合戦略 戦略4(フレイル予防から始まる健康)の振り返り

### 【「フレイル予防から始まる健康」ねらい】

高齢でも「自分らしい」生活を送るために、市民が若い頃から「自分に合った」健康づくりに自発的に取り組む機運を高めるべく、ライフステージに応じて「ふだんから」「長期的に」健康づくりを意識できるよう、負担が少なく楽しく続けられる仕組みを、ICTの活用を含め整備する。

また、疾病の早期発見・早期治療を推進するため、健診や検診を受診しやすい環境を整え、適切なタイミングで治療を受けられる体制を構築する。特に高齢者においては、移動距離や人間関係の縮小により活動範囲が狭くなる傾向があることから、フレイル対策による介護予防を進めるべく、住民運営による「通いの場」の設立・運営を支援する。

### 体系図

#### フレイル予防から始まる健康(重点区分C)

①	フレイル予防、通いの場でのICT活用	フレイルの早期発見、ICTを活用したフレイル予防教室等による健康で自立した高齢者の増加、要支援・要介護認定者数の減少
②	年齢に応じた市民の自主的な健康意識喚起	フレイル予防に向けた日常的な健康づくりや手軽に楽しみながら健康づくりができる仕組みづくり

# 事業項目ごとの成果と課題

## (① フレイル予防、通いの場でのICT活用)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対 効果	KPIへの 貢献度	
1	フレイルチェックシステムの構築	令和3年度にシステムを導入済	完了	○	○	○	導入によって簡易的ではあるが、健康状態をデータ化することで見える化が図られ、プレフレイル及びフレイルを効率的に抽出できている。
2	フレイル予防教室でのフレイル予防プログラム（分析・評価）の実施	上記システムを活用して、予防プログラムを実施中	順調	○	○	○	上記システムにより抽出したプレフレイル及びフレイルの方を、各種体操教室等に繋げることで、効率的に実施している。
3	通いの場や自宅でフレイル予防	DVDの配布やYoutube動画の作成などによって、自宅におけるフレイル予防を促進	順調	○	○	○	通いの場に通うことにハードルを感じている人に対してもアプローチが可能となっている。

### 成果:

- ・フレイルチェックシステムの導入により健康の状態のデジタル化、フレイル予防プログラムの円滑な実施につながった。
- ・オンライン通いの場アプリや元気もりもり体操の動画を作成し、自宅で一人でもフレイル予防ができるアプリケーションを提供することで、自発的なフレイル予防も促進。

### 課題:

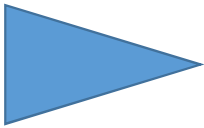
- ・財政上の懸念から令和6年度にフレイルチェックシステムの運用を終了。これまでの取組の成果を活かしつつ、費用対効果に優れるフレイル予防の取組の検討が必要。

# 事業項目ごとの成果と課題

## (② 年齢に応じた市民の自主的な健康意識喚起)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			これまでの評価				
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	年齢・ライフステージ別に具体的取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診での情報提供。</li> <li>・学齢期の健康教育や若者の健診受診の定着促進。</li> <li>・青年期から壮年期への受診しやすい環境づくり、重症化予防の取組、運動習慣定着の推進。</li> <li>・壮年後期への高齢期を見据えフレイル予防を念頭にいた健康教育（通いの場の提供を含む講演会）。</li> <li>・後期高齢期への後期高齢者健診の受診勧奨とフレイル予防の健康教育の出張講座や介護予防事業への接続。</li> </ul>	順調	○	○	○	年齢・ライフステージ別に取組を実施することで、効果的にアプローチできている。
2	ライフステージ間の取組を連携させ、加齢にともなってスムーズに必要な健康づくりに移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい生活習慣推進のための乳幼児期、学齢期への早期介入。</li> <li>・壮年期の生活習慣病や疾病の重症化予防、フレイルの周知啓発。</li> <li>・壮年後期への高齢期を見据えフレイル予防を念頭にいた健康教育（通いの場の提供を含む講演会）。</li> </ul>	順調	○	○	○	青年期、壮年期へのアプローチが手薄であり課題だったが、R7年度から国保加入者への若年健診（20-39歳対象）を開始。
3	毎日の「食事内容」「運動」「バイタルサイン」等を記録し、送信することで専門家からの助言が受けられるといったアプリの活用	ウェアラブル端末等を活用した取組を検討	未実施	△	-	×	検討した結果、健康意識が低い人に対しての有効な手段とはならず、費用対効果も見込めないことがあり活用しないと判断。
4	認知症予防に効果のある、他者との交流機会確保としての「通いの場」整備	認知症カフェへの支援、利用促進 連続講座「認知症の人と家族の集い」の開催	順調	○	○	△	認知症を患う家族等への支援策として有効である。
5	モデル地域の選定、モデル事業の実施	健診、医療、介護レセプトのない後期高齢者へアウトリーチ支援等を行い実態を把握。後期高齢者健診の啓発や必要時医療機関との連携、介護予防事業への接続等を行う。	順調	○	○	○	対象者を効果的に抽出できている。生活機能が低下し始めた段階での早期介入に繋がっている。

**成果:**  
・関係機関との連携によりライフステージに応じたアプローチを実現。



**課題:**  
・若年健診を契機に青年期へのさらなるアプローチも検討する必要がある。

## 現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 フレイル予防から始まる健康

- ・特定健診受診率は、国民健康保険加入者への特定健診の呼びかけなど周知活動を行っているものの実績は横ばい。
- ・要支援1・2、要介護2の認定割合については、増加傾向であり、今後はさらに加速する高齢化社会への移行に対応できる支援の在り方を検討する必要がある。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
特定健診受診率	目標	/	32.0	36.0	40.0	44.0	48%
	実績	31%	36.8	33.6	37.5	36.9	/
要支援1・2、要介護1の認定割合	目標	/	9.45	9.45	9.45	9.45	9.45%
	実績	9.45%	9.96	10.68	10.86	11.5	/
元氣もりもり体操参加者の内、運動器機能向上者数	目標	/	50.0	50.0	50.0	50.0	50%
	実績	-	50.0	76.0	70.0	-	/

## 現行の総合戦略 戦略4(支えあうコミュニティづくり)の振り返り

### 【「支えあうコミュニティづくり」ねらい】

地域社会の持続的な発展のためには、市民が地域の担い手として積極的に参画し、地域資源を活用して課題解決に取り組むことが重要となる。そのため、相談支援や地域づくり支援を重層的に行い、住民が「win-win」を実感できる仕組みを構築する。

特に、コロナ禍や高齢化が進む中で地域の重要性が増していることを踏まえ、自主的な活動を応援し、地域の持続可能な発展を支える。

### 体系図

#### 支えあうコミュニティづくり（重点区分C）

①	地域共生の推進	C SW（コミュニティソーシャルワーカー）が活動しやすい環境の構築、高齢者がアクティブシニアとして活躍できる土壌づくりなどの暮らしやすい環境整備
②	地域防災力の強化	自主防災組織を中心とする「共助」の精神の醸成、内水浸水対策等の基盤整備による災害対応力の強化
③	三玉プロジェクト（上下包括ケア拠点施設整備事業）	保健・福祉・介護・子育て支援の総合拠点施設や地域のにぎわいの拠点として医院跡地の整備

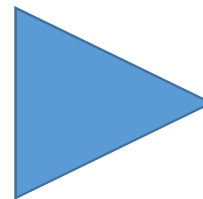
# 事業項目ごとの成果と課題

## (① 地域共生の推進)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			これまでの評価				
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置	・府中エリアと上下エリアにそれぞれ配置。 ・地域支援に関する研修（全4回）を行い、専門職のスキルアップを図っている。	完了	○	○	○	市と社協がともに県の研修に参加することで、情報の共有と連携の強化を図っている。
2	シルバーネットワーク事業・生活困窮世帯学習支援事業（学びたいむ）	・生活困窮世帯学習支援事業については、訪問型の事業を展開し、個別指導にあたっている。 ・集合型「学びたいむ」はR5年度から府中市社協の独自事業として継続している。	順調	○	△	△	生活困窮世帯学習支援事業は、貧困の連鎖を断ち切る目的で、塾に行くことができない低所得世帯の児童生徒にとって重要な役割を果たしている。シルバーネットワーク制度は実施できていない。
3	協働のまちづくりに向けた基盤づくり（市民への意識啓発、組織づくり）	・広島修道大学の「ひろしま未来協創センター」と連携し、地域の課題の可視化や新しい仕組みづくりに向けた調査を開始した。	順調	○	○	△	共助の仕組みが継続できる地域と困難な地域があるなど、個別課題は地域ごとに大きく異なる。修道大学との連携や、同様の状況で地域が自走できる仕組み作りを確立している市町への訪問等を通して、ノウハウを蓄積していく。
4	協働のまちづくり推進事業交付金の創設や既存制度の活用による、自主的な地域活動に対する包括的経済支援	公益財団法人広島県市町村振興協会からの助成を原資に、1団体50万円を上限として、地域課題の解決やまちの活性化につながる自主的・主体的な市民活動に対して補助を行った。	順調	○	○	△	新規性があり、持続可能な仕組みづくりに対する補助としたため、これをきっかけに地域の問題に向き合うきっかけとなった。
5	モデル地域の選定、モデル事業の実施	県の地域共生モデル事業を活用し、モデル地域を選定することで、地域課題の解消に向けて協働で実施	遅延	-	-	×	モデル地域を選定した令和3.4年度は、地域課題について関係団体と共有し対応することができた。
6	アクティブシニア（退職した高齢者）が気軽に参加して活躍できる場の整備	地域を支援する団体を作ることを目的とした「生きがい創出事業補助金事業」に替わる新たな事業を検討する。	未実施	△	-	×	定年延長等により、退職年齢が延長される状況でどのような活躍の場を創出できるのか、シルバー人材センターとの連携も含めて検討が必要。

### 成果:

・大学との連携による地域課題の可視化や地域主体の課題解決事業に対する支援など、多様な主体を巻き込んだ取組が進展。



### 課題:

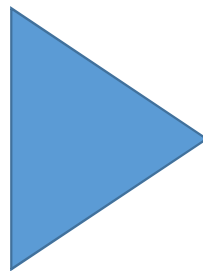
・アクティブシニアの活躍に向けては、高齢者を取り巻く雇用情勢が変化する中で行政が打ちだすべき施策の検討が必要。

## 事業項目ごとの成果と課題 (② 地域防災力の強化)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	マイタイムライン作成・普及	講習会の実施や地域の防災訓練、いきいきサロンなど様々な機会を通じて講習会を実施している。また防災リーダーに講師として地域で普及・作成指導してもらうため研修会を実施し講師を養成。	遅延	○	○	○	マイタイムラインの作成で、市民の防災意識は一時的には高まるが、一過性のもとなっている。定期的に防災訓練等を行っていない地域への講習会開催のきっかけがつかめない。
2	防災リーダーの養成	町内会長の推薦等により、防災リーダー養成講座の受講者を募集し、防災リーダーを養成。養成後は、継続的にスキルアップ研修を実施している。	順調	○	○	△	R6年度に新たに13人の防災リーダーを養成し毎年着実に増やしている。
3	排水ポンプの強化など、内水浸水対策の推進	中須排水区に固定式大型ポンプ2基の設置と、主に芦田川右岸側で発生する浸水被害解消のため可搬式ポンプ14台を導入、中須町で横断排水管を1箇所設置。中須排水区では根本的な解決を目的に中須グラウンド内にポンプ場の整備を決定し、R5年度設計が完了。R6年度から工事発注。自助の取り組み支援として、止水板設置や住宅高上げについて補助制度を策定した。	順調	○	○	△	予定どおり進捗している。ポンプ場については令和8年度内に稼働を開始する予定。補助制度については、実績が出ていない。

### 成果:

- ・小学生の授業でのマイ・タイムラインの作成や地域の講習会での作成支援などを通じて、マイ・タイムラインの作成者数は増加。
- ・地域との連携により防災リーダーの育成は着実に増加。



### 課題:

- ・定期的な防災イベントがない地域に対するアプローチが不十分。

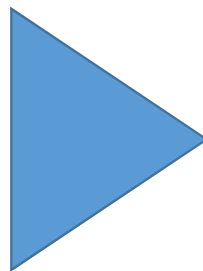
## 事業項目ごとの成果と課題

### (③ 三玉プロジェクト(上下地域包括ケア拠点施設整備事業))

◆D○			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	施設改修・開所	R4年5月に子育て、健康づくり、福祉等の総合相談支援窓口と障害福祉サービス、訪問介護事業者等を併せた総合拠点施設として、また、上下地域の交流拠点の役割も担うものとして「上下地域共生交流センター（通称：ふらっと上下）」を開設。地域共生社会実現に向け、当施設を拠点に官民が連携を図り、地域の課題解決に向け取組を促進している。	完了	○	△	△	在宅支援会議などを通じて、当事者及びその家族・近隣の状況を関係者が情報を共有し、連携を図りサポートするなどの取組を図っている。また、当センターは地域の賑わい・交流施設として定着を図り、乳幼児から高齢者までR5年度18,000人を超える方の利用があった。

#### 成果：

・旧三玉医院の施設を活用し、上下地域の地域課題解決に向けた交流拠点として上下地域共生交流センターを整備し、多くの方に利用いただいている。また、在宅支援会議などを通じて、ターゲットの情報を関係者が管理・共有したうえで連携を行っている。



#### 課題：

・多様化・深刻化する地域課題の解決に向けて、当施設を活用して、より多くの主体との連携などを進めていくことが求められる。

## 現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 支え合うコミュニティづくり

- ・第一弾として選定したモデル地域の課題については関係者との協議を経て対応に至ったが、続くモデル地域の選定に向けては地域に根差し、自発的に活動する団体の発掘や育成が必要。
- ・シルバーネットワークは地元町内会との協議が成立せず、事業化を見送り。
- ・マイ・タイムラインの作成は、学校での授業や地域の講習会などの機会を活用した周知活動により着実に増加してるが目標には達していない。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
モデル事業実施地域数(地域共生モデル地域数)	目標	/	2	3	4	5	5地区
	実績	0地区	1	1	0	0	/
シルバーネットワーク事業団体数	目標	/	1	2	3	4	4団体
	実績	0団体	0	0	0	0	/
マイタイムラインを作成している人の割合	目標	/	20	30	40	50	60%
	実績	-	7	17	29	37	/

## これまでの会議における議論のポイント

- 全体の方向性について【これまでの振り返り】

- 人口減少は地方都市で共通している課題。

- 競争領域(市が差別化を図る部分)と協調領域(広域で協力して取り組むこと)の設定が重要。

- 女性や若者をターゲットにしている点は地方都市共通の方向性。

- その中で高齢者についてどう考えていくかを示すことが重要。

- ポジティブな方向性として「活躍できるまち」を目指すという思いは一致。

- そのために何をするか、というところでは“府中ならでは”を真摯に考えていく必要がある。

- 府中市を選ばれた人の声を拾い上げることが、府中市の強みとは何かを改めて認識することにつながる。

- 若い世代と高齢者が共存し、「(誰もが)活躍できるまち」であることを府中市の強みとし、この部分に関する踏み込んだ議論が必要。

⇒府中市に関わるあらゆる人が活躍できるよう、すべての分野で幅広く支援していくことが必要。

⇒ものづくりや教育など、府中市の強みとなる分野を中心に施策を展開していくことが求められる。

- 福祉、介護、医療、地域協働、防災、交通分野について

- 広域で生活することの利便性を高め、その中にある府中という位置づけが良いのではないか。

- お年寄りがいつまでも元気で過ごせる街こそが本当に良い町ではないか。

⇒市民一人ひとりが役割を持つことができ、活躍できる環境の実現について、多面的に検討することが必要。

## 関連計画の方向性

### ◆地域福祉計画（R7-R11）が目指す姿

【誰もが安心して暮らせる地域社会の実現】 高齢者、障害者、子育て世代など多様な市民が住みやすい環境  
【市民や地域の支え合いを活かした福祉の充実】 地域住民同士の交流・支え合い、市民・地域団体が主体となる支え合いのネットワーク  
【持続可能で地域に根差した福祉サービスの提供】 地域ニーズに応じた柔軟な福祉サービス、多世代にわたる連携を通じた継続的で質の高い福祉体制

### ◆健康ふちゅう21（R7-R18）が目指す姿

【市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるまち】 健康意識を高め、自己管理を支援する環境  
【健康を支える地域の環境づくり】 健康に配慮した暮らしやすいまちづくり、地域全体で健康を支える仕組み  
【健康格差のない誰もが健康を実現できる社会】 すべての世代が健康を享受できる、健康の公平性の確保

### ◆国土強靱化地域計画（R3-R7）が目指す姿

【災害に強く安全・安心なまちの構築】 自然災害に対する防災・減災対策の強化、地域防災拠点の整備  
【地域全体で支えあう強靱な社会の実現】 市民や地域団体が災害時に支え合う体制、地域コミュニティによる助け合いや情報共有  
【迅速な復旧・復興を可能とする仕組みの整備】 災害後の復旧・復興の仕組みや計画の整備、ライフラインや公共サービスの早期復旧

### ◆地域公共交通計画（R6-R10）が目指す姿

【利便性が高く、誰もが利用しやすい公共交通の整備】 すべての人が移動しやすい交通環境、地域ニーズに対応した運行体制  
【持続可能な交通ネットワークの構築】 地域や事業者と連携した効率的で持続可能な公共交通ネットワーク  
【地域の活性化】 移動の目的となる施設と公共交通の連携、乗り継ぎ割引の導入などのきっかけづくり

## 次期総合戦略 戦略4の全体像(案)

### ①地域共生社会の実現

- 重層的支援体制の構築【継続】
- 地域の見守りの強化【継続】
- 高齢者の活躍支援【継続】

### ④防災・災害対応

- 地域防災力の向上【継続】
- 災害対応力の強化【継続】
- 内水浸水対策【継続】

### ②健康づくり

- フレイル予防【継続】
- 認知症予防【継続】

### ⑤地域協働

- 持続可能な地域づくりの検討【継続】
- CSRマッチング支援【継続】

### ③医療

- 医師・医療機関の確保【継続】
- 医療連携の充実【継続】

### ⑥交通

- 公共交通ネットワークの利便性向上【継続】
- 公共交通の利用促進【継続】

# 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

## ① 地域共生社会の実現

### 【取組の目的】

地域住民、行政、市民団体、事業者などが協働し、それぞれの役割を発揮しつつ、お互いに支え合える地域共生社会を目指すため、「共助」の仕組みづくり、地域福祉コミュニティの活性化、多様な主体間の横断的な連携に取り組む。

### ○重層的支援体制の構築【継続】

-「属性や世代を問わず断らない包括支援」の実現に向け、断らない相談支援体制の整備や社会参加・地域づくりのに向けた支援に継続的かつ伴走的に取り組み、多様化・複雑化する生活課題に対応する。  
(重層的支援制度のイメージについては別紙参照)

### ○地域の見守りの強化【継続】

-認知症カフェといった高齢者等が社会参加しやすい場の提供や、民生委員児童委員協力員制度などを通じて、地域での見守り支援を強化する。

### ○元気な高齢者の活躍支援【継続】

-従来の健康維持や生きがい支援だけでなく、地域社会に参加・関与するための役割を創出し、あらゆる地域課題の解決に向けて、活力ある高齢者を中心とし世代や属性を超えた共生社会づくりの実現を支援する。

# 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

## ② 健康づくり

### 【取組の目的】

高齢化社会への移行に伴い多様化・複雑化する地域住民の健康課題に対し、健康づくりの基本となる市民自らの規則的な生活習慣づくり・運動習慣定着の支援に加え、高齢化に伴う介護リスクの抑制や介護人材の確保など持続可能な介護体制の構築に向けて取り組む。

### ○フレイル予防【継続】

-達成感を得やすいプログラムや家族単位で参加できる取組など当事者が自発的にフレイル予防に取り組む意欲を持つことができる取組を推進する。

### ○認知症予防【継続】

-超高齢化社会への移行において増加が見込まれる認知症を自分事として捉え、運動機会・学習機会の提供や気軽に交流できる通いの場の拡充などを推進するとともに、本人の意思を尊重し安心して生活できるよう成年後見制度の普及啓発を進める。

## 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

### ③ 医療

#### 【取組の目的】

将来にわたり医療サービスを安定的に提供するため医師の確保をはじめとした安定的な医療提供体制の整備に努めるとともに、二次医療圏域内をはじめとした市外の医療機関との連携による「地域完結型」医療の提供体制整備に取り組む。

#### ○医師・医療機関の確保【継続】

-奨学金の支給による地域医療の担い手育成に加え、広域的に関係機関と連携し医師の確保に努める。併せて、開業支援補助金等の制度により市内での開業医(診療所等)の確保に努める。

#### ○医療連携の充実【継続】

-多様化する住民の医療ニーズに対応できる安定した医療提供体制・救急医療体制を確保するため、医療機関等との連携を図りながら、広域的な連携のもと医療機能の強化を目指す。

## 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

### ④ 防災・災害対応

#### 【取組の目的】

市民一人ひとりが自らの身を守る行動をとる「自助」の精神と、地域の人どうしが支え合う「共助」の精神が醸成されるよう、地域防災力や災害対応力の向上に向けた取組を展開するとともに、近年激甚化の傾向にある風水害をはじめとする自然災害に備え、市民が安心して暮らせるまちづくりをめざす。

#### ○地域防災力の向上【継続】

-マイ・タイムラインの作成支援や防災リーダーの養成を継続することで、市民一人ひとりが地域の防災活動に関与することを通じて「共助」の精神の醸成を目指す。

#### ○災害対応力の強化【継続】

-災害時の企業への協力要請や連携協定を通じて、近年激甚化の傾向にある風水害をはじめとした自然災害に対する官民の力を合わせた解決策を検討・実現する。

#### ○内水浸水対策【継続】

-現在機能強化に向けた工事を行っている中須ポンプ場をはじめ、浸水地域における水路改修や適切な樋門管理等を行うことで、内水浸水対策を強化する。

## 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

### ⑤ 地域協働

#### 【取組の目的】

日々多様化・深刻化する地域課題に対し、行政や町内会だけでなく企業や学生など地域の多様な主体がつながり相互に補完・協力しあい、時代のニーズに応じたまちづくりに取り組む。

#### ○持続可能な地域づくりの検討【継続】

-住民・事業者・行政など多様な主体がそれぞれの特性や資源を活かしながら協働し、社会課題の解決に向けた地域ぐるみの取組を行うことで、地域のコミュニティ活動を推進する。

#### ○CSRマッチング支援【継続】

-地域のニーズと企業のCSR活動などをマッチングし、パートナーシップのもとで協働して地域の課題解決に取り組む仕組みを構築する。

# 課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

## ⑥ 公共交通

### 【取組の目的】

地域での生活に応じた公共交通機関の配備やターゲットに合わせた実効性の高い利用促進策の推進などを通じて、「誰もが安心して快適に移動できる日常生活に必要な公共交通の確保」と「持続可能な地域公共交通」の実現を目指す。

### ○公共交通ネットワークの維持・確保【継続】

-運行ダイヤの最適化や運行経路・エリアの見直しなど市民や利用者のニーズに合わせたサービスの提供により持続可能なサービスに繋げていく。

### ○公共交通の利用促進【継続】

-乗り方教室、車両のデコレーション、お試し乗車券などターゲットに合わせた利用促進を意識啓発を行う。

## 今後のスケジュール

回数	開催時期	議論の内容
	策定委員会	
第1回	令和7年5月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合戦略概要の説明</li> <li>・各課の関連施策の整理</li> </ul>
第2回	令和7年7月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期総合戦略の方向性の説明</li> <li>・意見交換</li> </ul>
第3回	令和7年7月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> <li>-戦略目標1:産業</li> </ul> </li> <li>・意見交換</li> </ul>
第4回	令和7年9月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> <li>-戦略目標2:子育て・教育</li> </ul> </li> <li>・意見交換</li> </ul>
第5回	令和7年10月31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> <li>-戦略目標3:まちづくり・観光・スポーツ</li> <li>-戦略目標4:防災・健康・福祉・交通</li> </ul> </li> <li>・意見交換</li> </ul>
第6回	令和7年12月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期総合戦略案審議</li> </ul>
パブコメ	令和8年1月(1か月程度)	
第7回	令和8年2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの結果公表</li> <li>・次期総合戦略の提示</li> </ul>